

令和2年度

黒部市教育センター事業の点検評価

報告書



令和3年3月
黒部市教育センター

目 次

目 次	1
I 令和2年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	2
II 点検評価の結果	
1 児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1) 市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問・支援型訪問を含む）	3
(2) 学級経営研修会（市内新規採用教員）	4
(3) 学力向上研修会	5
(4) 特別支援教育研修会	6
(5) プログラミング教育研修会	7
(6) 情報教育研修会	8
(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	9
(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会	10
2 黒部国際化教育の充実	
(1) 黒部国際化教育組織部会	11
(2) 企画・運営・評価部会	12
(3) カリキュラム部会	13
(4) 英会話科担当者定例会	14
(5) 外国語教育の推進に関わる研修会	15
(6) 英会話科等授業の充実	16
(7) 帰国児童生徒教育研究会	17
(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	18
3 生徒指導・教育相談の充実	
(1) いじめ問題等研修会	19
(2) 生徒指導主事等研修会	20
(3) 教育相談の充実と体制づくり	21
(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実	22
(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進	24
(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業	25
4 学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1) 社会科研究委員会	26
(2) 理科研究委員会	27
(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	28
5 迅速な教育サービスの提供	
(1) 情報提供	29
(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	30

I 令和2年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

2 点検評価の対象

令和2年度の黒部市教育センター事業

3 点検評価の方法

(1) 「令和2年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員9名において、客観的な視点で検討する。

【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	茶谷 渉	小学校長会会長（桜井小学校）
運営副委員長	中村 靖	中学校長会会長（明峰中学校） 中学校教育研究会会長
運営委員	高野 晋	学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	齊藤 誠	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	島田 恭宏	こども支援課長（黒部市市民生活部）
運営委員	清水 俊充	小学校教育研究会会長（若栗小学校）
運営委員	戸島 宏之	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	愛場 幸男	生徒指導連絡協議会会長（清明中学校）
運営委員	平田 恩	小中学校教頭会会長（生地小学校）

(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。

Ⅱ 点検評価の結果

1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	1－(1) 市教委・市教セによる学校訪問 (通常訪問・支援型訪問を含む)
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <p>○通常訪問や支援型訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言に当たる。</p> <p>○1・2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、若年教員の授業を中心に各教科等の授業を参観後、授業者と懇談する。学級経営や「確かな学力の育成」、「生徒指導の機能を生かした授業」等について指導助言するとともに、悩みを聞く場としても活用する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に計画されていた通常訪問・支援型訪問は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。2学期の通常訪問(3小学校、1幼稚園、1こども園)、支援型訪問(1中学校)において、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行った。学校訪問研修の概要をまとめ、校長研で報告した。 ・1学期に計画されていた通常訪問・支援型訪問が中止となったことを受けて、1学期中に全小中学校において、市教委・市教セによる学校訪問を実施した。学級経営や教科指導、保護者対応等に関する課題を共有し、助言に当たったことは、若年教員にとって有意義であったと考える。 ・2学期は例年と同様に、通常訪問研修を実施しない学校のみを対象として市教委・市教セによる学校訪問を実施した。1学期・2学期と継続して2度の懇談の機会があり、効果的な指導に繋がった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・通常訪問・支援型訪問ともに目的に応じて研修日程や研修内容を学校が主体的に決定することになった。市教委・市教セによる学校訪問についても、各校、各教員の課題に応じて実施できるよう、事前の相談や打ち合わせを丁寧に行っていく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	1－(2) 学級経営研修会（市内新規採用教員）
内容・方策	<p>黒部市内着任の新規採用教員が集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、横の連携を強め、互いに相談し合える体制を構築できるよう支援する。</p> <p><学級経営研修会（新規採用者対象）></p> <p>○第1回【5/7 →延期 6/4開催 参加者9名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か月を振り返ってのグループ協議 授業、学級経営、生徒指導、その他、校務に関わること等に関して嬉しかったこと、辛いこと、悩んでいること <p>○第2回【7/9開催 参加者10名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導講話「教師の仕事とは」講師：齊藤 誠 学校教育班長 ・3か月を振り返ってのグループ協議 互いの学級経営上の悩みや課題に対する解決策や手立て
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期中、県の初任者研修が中止や勤務校における代替研修となり、初任者同士が情報交換できる機会がほとんどなかったことを受けて、研修会を2回開催することとした。 ・他県教職経験があり初任研免除の新規採用教員（3年次）も参加対象とすることで、不安なことや悩み等の受け止めに努めた。 ・第1回研修会では指導講話等は設定せず、参加者が互いに思いを伝え合い、聞き合う時間を十分にとるようにしたことで、同期としての仲間意識を高めることができた。 ・3か月を経た時期に開催した第2回研修会では、指導講話を通して、教師としてのあるべき姿や目標、やり甲斐について改めて考えることができた。 ・参加者からは、「話を聞いて同じことに悩んでいると共感する部分が多くほっとした」「同期の先生方とこれからも相談し合いたい」「教員の仕事の素晴らしさに改めて気付くことができた」「今、先輩の先生方によくしていただいている幸せを改めて感じ、次はこの恩を送れるようになりたい」等の感想が寄せられ、有意義な研修会となった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校、講師経験の有無等、初任者や新規採用教員の状況や人数に応じた研修会のスタイルを考えていく必要がある。 ・初任研を踏まえ、2年次・3年次の教員が互いに学び合い、指導力・授業力向上を図るための研修について検討する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。 新規に、2・3年次教員を対象とした研修会を開催する。

事業・研修会名	1 - (3) 学力向上研修会
内容・方策	<p>新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の在り方について、具体的な授業実践をもとに知見を深めるとともに、学習の基盤となる学級経営や学校運営の在り方について研修を行う。</p> <p>○学力向上研修会（講演）【8/5予定】中止 ・講師による師範授業と学力向上に関する講演会 【講師】 菊池 省三 先生 【演題】「これからの学びに必要な学級づくり」</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">D</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・令和元年度の成果を基に、市内中学校において実施する師範授業を参観後、講演会を開催する計画としていた。県外の講師による研修会であること、夏季休業日が例年よりも1週間遅れの開始となったこと等により、計画の変更が必要となった。オンラインにより講演会を開催することも検討したが、各校へ配信するためのネットワーク環境の整備状況や講師との日程調整が難しかったことから、今年度は開催を見合わせた。</p>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間中に師範授業を伴う研修会を開催するためには、授業実施校の教員のみでなく、保護者・生徒の理解が必須であり、実施校との綿密な連携が必要である。 ・県外からの講師を招聘する場合は、オンライン等での開催についても視野に入れて準備を行う必要がある。
今後の方向性	<p>・令和3年度、師範授業と講演を実施できるよう、学校並びに講師と調整を図る。新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインでの開催になることも想定し準備する。</p>

事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導を行うことを目指して研修を行う。</p> <p>○特別支援教育研修会【8/18、参加者13名】 【講師】 東部教育事務所 特別支援教育指導員 上田 綾子 先生 【内容】 児童生徒の学校不適応を防ぐための支援と理解</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は希望者が参加する研修会を予定してしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対象を各校特別支援教育コーディネーターに絞った研修会とした。 ・講話の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の困難さについて考える ②支援について考える ③将来を見据えた就学指導、進路指導 ・②では、事前アンケート（各校で対応や支援に困っている児童生徒の行動について）をもとに作成した事例について事例検討を行った。具体的な事例をもとに事例検討に取り組む中で、校内で同様の事例検討を行う際の手順や留意点について理解することができた。 ・参加者からは、「児童生徒の困難さを理解して支援することの大切さを痛感した」「組織として段階的に取り組む支援体制を整えていきたい」「児童生徒の将来を見据えて就学指導・進路指導に取り組むことの必要性が分かった」等の感想が寄せられ、今後、学校全体で取り組む特別支援教育の推進に繋がる有意義な研修となった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が求めるニーズを把握し、研修会の内容を考えていく必要がある。今後も、各校における課題や悩み等の把握に努めることが大切である。その上で、研修会を有意義なものにするため、講師との打合せを十分に行っていくことが必要である。 ・特別な支援を必要とする児童生徒はどの学級にも相当数在籍しており、特支級担任や特別支援教育コーディネーターだけでなく、全教員にとって必須の研修である。ICTの活用等により、できるだけ多くの教員が研修できるようにしていきたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	1－(5) プログラミング教育研修会
内容・方策	<p>今年度から始まるプログラミングに関する学習について講話と実技を通して研修して、指導力の向上を図る。</p> <p>○プログラミング教育研修会【7/30予定】中止 【講師】 青山学院高等部・中等部 安藤 昇 先生 【内容】 算数・理科における効果的な指導の在り方について</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">D</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・当初計画していた研修会は、県外の講師による研修会であること、開催日が1学期の授業中となったこと等により、開催を見合わせた。</p>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想の実現により、令和3年度4月より一人一台端末と全教室にWi-Fi環境が整備される。一人一台端末を効果的に活用したプログラミング学習の在り方について研修に取り組む必要がある。 ・県総合教育センターで開催される研修会や先進的に取り組んでいる近隣市町の取組に学び、効果的な研修の在り方を検討していきたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、理科研究委員会、情報教育研修会の内容に含めて実施する。

事業・研修会名	1 - (6) 情報教育研修会
内容・方策	<p>GIGAスクール構想の実現に向けて、児童生徒の一人一台端末を有効に活用する授業の在り方について学び、教員の指導力向上を図る。</p> <p>○第1回情報教育研修会【12/15、参加者24名】 【講師】 富山大学 大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生 【内容】 講話、授業支援ソフト「ロイロノートスクール」の体験</p> <p>○第2回情報教育研修会【3/2、参加者23名】 【講師】 GIGAスクールサポーター（トヨックス） 【内容】 GIGAスクール学習者用端末とMicrosoftoffice365の活用</p> <p>○GIGAスクール学習者用端末運用研修（各校）</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度4月より全小中学生に一人一台の端末が整備されることとなったことに合わせて、年度当初の計画にはなかったが、市教委との連携により、急遽、研修会を計画、実施した。 【第1回研修会】 ・文科省資料を基に、社会における情報化の急速な進展と教育の情報化についての講話を聞き、GIGAスクール構想の目的や意義、よりよい活用の在り方、留意点等について理解を深めることができた。 ・研修会後半では、参加者一人一人が1台の端末を使用して、授業支援ソフト「ロイロノートスクール」を活用した協働学習を体験することにより、一人一台端末使用による授業を具体的にイメージすることができた。 【第2回研修会】 ・各校のWi-Fiネットワーク環境と学習者用端末の設定が完了したことに合わせて、教員がGIGAスクール学習者用端末の活用について研修する機会を設定した。 ・GIGAスクールサポーターを講師として各校の情報教育推進のリーダー教員が実技研修を行うことにより、各校での活用や研修の見通しをもつことができた。 ・市教委施設係担当者も出席いただき、小・中学校における教員の疑問や質問、課題の把握に繋がった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からGIGAスクール端末の活用が開始となる中、全ての教員が基本的な活用方法を身に付けることが必要となる。情報教育の推進リーダーとなる教員への研修会と各校における活用研修会等を段階的に計画、実施して行く必要がある。 ・情報教育研究委員会において、プログラミング学習も含めて、効果的な活用事例や指導事例を収集するとともに、その成果を各校、各教員へ広めていくことが重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、4月からの各校での端末活用の状況を踏まえ、必要な内容について研修を継続する。

事業・研修会名	1－(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小中学校児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、報告書としてまとめ小中学校に配布する。報告書は小中学校における学力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による学校教育への影響が考慮され、「令和2年度 全国学力・学習状況調査」は中止となり、調査用紙のみ配布された。 ・本市においては、教科に関する調査は各学校の実情に応じて活用することとし、質問紙調査は全学校において実施することとした。 <p>【教科に関する調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各校での調査問題の活用状況について調査した。「児童生徒が学校で調査問題に取り組み、教員が採点し、実態を把握・分析した」「調査問題を研修会や研究授業等の資料として活用した」等の回答を得た。 <p>【質問紙調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校で調査を実施した後、市内全児童生徒の回答用紙を集約し、データ入力・結果集計・分析を行った。 ・学校ごとのデータを各校へ送付した。その際、市内の結果集計も合わせて送付し、各校における分析に活用できるようにした。 ・今年度の結果を昨年度の本市及び全国の結果と比較、考察し、本市における顕著な傾向について報告書にまとめた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施してきたように、「標準化得点における結果の経年変化」「国語、算数・数学の相関関係」「小6から中3への変容」「設問別正答率の学校間の開き」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関」「児童生徒質問紙調査の経年比較」「学校質問紙調査結果の全国との比較」「SP分析」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供する。 ・調査結果の経年変化について標準化得点を活用することで、黒部市全体の経年変化を確認する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	1－(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会
内容・方策	<p>全国や富山県が実施した体力・運動能力調査の結果をもとに、市内児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、学校での授業改善や体力向上・生活習慣改善の取組を支援する。</p> <p>①「令和2年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を分析し、本市の児童生徒の課題を示す。</p> <p>②体力・運動能力向上研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。</p> <p>○体力・運動能力向上研修会【7/27予定】中止 【講師】 県総合体育センター 指導課 山地 延佳 先生 【内容】 体育の授業力向上に向けた実技研修</p> <p>○体力・運動能力 向上指導者研修会【8/7体育主任11名参加】 【講師】 東部教育事務所 主任指導主事 竹内 康彦 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は中止となった。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの制限の下で教育活動が実施される中、市独自の調査や分析も実施することができなかった。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は、小・中学校の希望教員を対象として、「体育の授業力向上に向けた実技研修会」を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況から実技研修は取りやめることとした。 ・「学校の新しい生活様式」における体力づくりや感染防止対策を踏まえた体育科授業、運動会・体育大会の在り方に関する研修の要望を受けて、急遽、「体力・運動能力向上指導者研修会」を開催した。 ・参加者からは「実技を伴う体育の授業において留意すべきことが明確になった」「小学校から中学校へのギャップの解消やLGBTへの対応等、今日的な課題にアンテナを高くして取り組んでいきたい」等の感想が寄せられた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた生活様式や運動の仕方が児童生徒にも求められ、早1年以上が経過している。児童生徒の体力・運動能力の課題を把握し、その解決策を考えていくことが必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。広く参加者を募る研修会（実技研等）は開催しない。

2 黒部国際化教育の充実

事業・研修会名	2－(1) 黒部国際化教育組織部会
内容・方策	<p>黒部国際化教育の各事業について、方針や内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、カリキュラム部会、英会話科定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の英語の指導に関する年間指導計画について ・令和2年度の成果や課題、令和3年度の方針について ・令和3年度以降の英会話科等について
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】7月7日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の黒部国際化教育の全体計画や英語の指導に関する年間指導計画、英語サマーキャンプ、姉妹都市交流事業について協議した。今年度より、小学校では教育課程特例校としての英会話科に替わり、1・2年が英会話、3・4年が外国語活動、5・6年が外国語科を実施することを踏まえ、指導や授業の在り方について共通理解を図った。 <p>【第2回】3月15日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の黒部国際化事業における効果測定や次年度に向けた年間指導計画の改訂、令和3年度以降の英会話科等の方針について協議した。効果測定においては、英検の受検率・取得率、「Enjoy talking」、「Speaking test」の結果、英語の学習に関わる児童生徒の意識調査結果について資料をもとに実態を把握した。 ・小学校高学年の外国語科が教科化された初年度であり、今年度の課題を確認し、次年度以降の取組について協議した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、英語サマーキャンプや姉妹都市交流事業等が中止となったことやALTの来日が遅れている影響等について話し合った。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度以降の中学校英会話科や小学校における英語に関する指導の在り方について、今後も検討していく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。


事業・研修会名	2－(2) 企画・運営・評価部会															
内容・方策	<p>英会話科等の取組が充実するよう、重点目標の共通理解を図るとともに、黒部市における取組状況の共通理解、成果と課題の確認を行う。(参加者は市内全小中学校の教頭)</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関するアンケート、「Enjoy talking」「Speaking test」の実施と集計、英検3級以上取得者調査、中教研学力調査英語科聞き取り調査の結果(今年度中止)等について ・令和2年度の英語に関する指導の成果と課題 ・令和3年度の英語に関する指導の年間指導計画について 															
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】7月17日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、小学校では教育課程特例校としての英会話科に替わり、1・2年が英会話、3・4年が外国語活動、5・6年が外国語科を実施することを踏まえ、指導や授業の在り方について共通理解を図った。 ・「Enjoy talking」及び「Speaking test」の実施と報告について変更点を確認し、具体的な留意点について協議した。 <p>【第2回】2月16日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関するアンケートや「Enjoy talking」「Speaking test」の結果、授業の様子等から、英語の学習における成果と課題について協議し、今後の研修の在り方や授業実践のための環境整備について情報交換することができた。 ・年間指導計画における変更点を確認し、実践する上で留意すべき内容について協議した。 ・英検3級以上の受検率、取得率(中学3年)が昨年度よりも低下した要因や次年度へ向けた方策等について協議した。 <p>【参考】</p> <table border="1" data-bbox="448 1570 1410 1715"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英検3級以上の取得率(%)</td> <td>41.3</td> <td>33.8</td> <td>39.6</td> <td>37.9</td> </tr> <tr> <td>英検3級以上の受検率(%)</td> <td>45.3</td> <td>35.7</td> <td>50.4</td> <td>41.5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H29	H30	R1	R2	英検3級以上の取得率(%)	41.3	33.8	39.6	37.9	英検3級以上の受検率(%)	45.3	35.7	50.4	41.5
年度	H29	H30	R1	R2												
英検3級以上の取得率(%)	41.3	33.8	39.6	37.9												
英検3級以上の受検率(%)	45.3	35.7	50.4	41.5												
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年での外国語科の教科化、英語専科教員の配置等、英語に関する授業が大きく変化している。各校での取組や成果を共有するとともに、市全体の課題を共通理解し、その解決に向けての方策を考え、全小中学校で取り組んでいく必要がある。 															
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。 															



事業・研修会名	2－(3) カリキュラム部会
内容・方策	<p>今年度のカリキュラムにおける成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○年3回（5月、6月、1月）開催する。 【第1回5月予定】 中止 【第2回6月予定】 中止 【第3回1/21開催】</p> <p>○外国語教育に関する研修会（魚津地区センター協共催）の事前準備をする。 ○年間指導計画の見直し及び作成を行う。 ○部員は小中各1名（中学校は英語科教員）及び小学校英語専科教員とする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回・第2回】 ・「外国語教育に関する研修会（魚津地区センター協共催）」の事前研と事前準備を主な内容としていたが、夏季休業中に予定していた該当研修会を中止としたこともあり、1学期中に計画していた部会を中止とした。</p> <p>【第3回】 1月21日開催 ・小学校部会、中学校部会ごとに、次年度の年間指導計画作成に向けて協議し、改訂作業を行った。 ・外国語教育の充実に向けて、「黒部国際化教育に関するアンケート（学校質問紙）」結果に見られる課題と、その解決策について協議した。</p>
課題・改善	<p>・小学校3～6年においては、教育課程特例校による英会話科ではなく、外国語活動・外国語科の授業を行うため、黒部市独自の年間指導計画による授業は、小学校低学年と中学校英会話科のみとなった。本部会の役割も年間指導計画の作成から市の外国語教育を推進することへと変えていくことが求められる。部会名も目的や役割に応じた名称に変更する。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、名称、役割等を変更し、令和3年度も継続する。</p>

事業・研修会名	2－(4) 英会話科担当者定例会
内容・方策	<p>月1回定例会を開催し、ALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。</p> <p>○英会話科等の授業充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。</p> <p>○1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、業務の状況を確認したり、相談に応じたりする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、毎月1回（年間計8回内1回中止）、定例会を開催した。 ・小学校高学年において外国語科が開始したことに合わせて、その指導の充実に向けて研修を行った。 ・授業やHRT・英語専科教員との打合せ、指導者の役割等についての課題や改善点等をグループに分かれて話し合うことを通してALTや英会話講師の指導力向上を図った。 ・市教委担当者が、英語サマーキャンプや児童センターでの英語教室等の開催（中止）の見通し、新型コロナウイルス感染症への対応等について説明することで、ALT、英会話講師の安心に繋がった。 ・1月定例会では、中学2年生徒が英会話科授業において作成した“<i>This is Kurobe</i>”の内容を検討し、英文の修正等に取り組んだ。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年においては、教科化により、教科書の使用、「読む、書く」活動等、これまでの授業や指導と変えていかなければならない部分が多かった。長く勤務している英会話講師の中にはその対応に悩んでいる姿も見られた。多くの小学校で、英語専科教員が授業を担当しているため、定例会にも英語専科教員が参加するなどして、連携と指導の充実を図っていく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	2－(5) 外国語教育の推進に関わる研修会
内容・方策	<p>外国語教育（英会話・外国語活動・外国語科・英会話科）の指導の充実と指導者の英語活用力を高めることを目指して研修を行う。</p> <p>○外国語教育に関する研修会（魚津地区センター協共催） 【8/7予定】中止 【講師】 富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生</p> <p>○小学校英語専科教員研修会 市内小学校の英語専科教員2名と英会話講師、ALT、市教セ所員等による外国語科授業参観を基にした研修会</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に計画していた魚津地区センター協主催による研修会・講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、黒部市教セ主管の「外国語教育に関する研修会」も中止することとした。 【第1回小学校英語専科教員研修会】6月30日開催 ・今年度、小学校外国語科が新たにスタートし、英語専科教員2名が、小学校6校において、主として高学年の外国語科授業を実施している。小学校での指導経験のない専科教員が小学校で授業を実施する上での悩みや課題を出し合い、解決の手立てを共に考えることができた。 【外国語科授業の相互参観】10月27日、11月10日 ・荻生小、生地小にて2名の英語専科教員が実施した授業をALTや英会話講師とともに参観した。 【第2回小学校英語専科教員研修会】12月22日開催 ・外国語科授業の相互参観を受けて、授業改善を目指して研修した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年の外国語科が教科となり、授業時数も増加したことにより、中学校英語科との連携がこれまで以上に重要となった。「読むこと、書くこと」の指導の在り方等、小学校教員が中学校英語科教員の経験や専門性から学ぶことも必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度は、小・中学校の指導の連携を重点とした研修を実施する。

事業・研修会名	2－(6) 英会話科等授業の充実
内容・方策	<p>各校の取組を紹介したり、黒部を題材とした教材を扱ったりして、英会話科等授業の充実を図る。</p> <p>①今までの「英会話科」のよさを「英会話」「外国語活動」「外国語科」の授業に生かすための工夫について、カリキュラム部員、企画・運営・組織部員等と情報交換する。</p> <p>②中学校2・3年の英会話科の授業において、ふるさと黒部を英語で豊かに語ることでできる生徒を育成するための教材“<i>This is Kurobe</i>”を扱う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・「黒部国際化教育に関するアンケート」を実施し、児童生徒アンケートの回答及び学校質問紙の回答を集計した。それをもとに、外国語教育の充実に向けて、カリキュラム部会や企画・運営・評価部会において協議し、各校の取組についての情報を交換した。 ・英会話科等の取組について、成果と課題を確認し、冊子「英語の指導に関するまとめ」を作成し、配付した。 ・今年度も、市内中学校の2年生が教材“<i>This is Kurobe</i>”の改訂を行った。例年より早く（7月）作成計画を各校へ伝えたことで、作成期間にゆとりをもたせることができた。 ・今までの表現を生かしながらも表現が豊かになり、内容がさらに充実した。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各校1名以上の部員がいる「企画・運営・組織部会」や「カリキュラム部会」において、各校での外国語教育に関する取組についての情報を交換し、市全体の外国語教育の充実を図る。 ・“<i>This is Kurobe</i>”は、中学校第2学年で作成し、第3学年において主要な教材として活用することになっている。2年間にわたる教材のため、効果的な活用ができるように、定例会等でJETやALTと協議し共通理解を深める。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	2－(7) 帰国児童生徒教育研究会
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、安心して学校生活や地域・社会での生活を送ることができるよう支援する。 (黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める)</p> <p>① 保護者会やサマースクールの開催、会報「Access」の発行を行う。</p> <p>② 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p> <p>③ 学校及び関係機関、保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回保護者会（中央小学校） 【6/27予定】中止 ・ 第2回保護者会（中央小学校） 【12/5開催】保護者6名参加 親子活動は実施せず、懇談会のみ行った。進学や高校入試、言語（母語）や食事について話し合った。 ・ サマースクール（黒部市内）【7/31予定】中止 <p>②の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外研修報告【5/27予定】中止 黒部市立石田小学校 教諭 北村 百合 集合研修は開催せず、10月下旬、紙面にて報告 ・ 全体研修会【5/27予定】中止 ・ 国際理解教育研修会【10/20予定】中止 <p>③の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会報「Access」や教育センターのホームページ、YKK教育相談室だよりにより、一時帰国等の家族にも広く活動を紹介している。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者会、サマースクール等の活動を見合わせた。次年度の実施に備え、より多くの児童生徒・保護者が参加できるような有意義な活動を工夫する。 ・ 国際理解教育について参加者が知見を深めることができるような研修内容を検討したい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育
内容・方策	<p>帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導に当たる。</p> <p>○ 帰国児童生徒に対しては一人一人に応じた学習指導を、外国人児童生徒に対しては日本語指導を中心に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校では、数名の外国人児童について、週3回（12月からは週4回）の付添指導を行った。帰国・外国人児童が学習内容や教師の指示を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明することで、自信をもって挙手したり、楽しく活動したりできるようにサポートすることができた。 ・中央小学校の4学年外国人児童1名について、週4日1時間ずつの日本語個別指導を行った。教室での学習内容をより理解できるようにするために、担任と連携し、漢字の読み書きや文章の書き方等の指導をした。 ・市内小学校に、外国の文化や生活についての掲示を貸し出すことにより、国際理解のきっかけづくりに努めた。 (今年度4校利用) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や学級担任との連携を図り、個々の児童生徒に応じた指導を継続する。 ・個別指導や付き添い指導をしている外国人児童のよさを生かして学習ができるように、学習の様子や生活の状況を担任やスタディメイトと共有する。 ・帰国・外国人児童生徒が編入した際に効果的な対応ができるよう、これまでの指導事例や効果的な対応等について累積しておく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続していく。

3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会
内容・方策	<p>いじめ問題について、「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>○「いじめ問題等研修会」(年2回)を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校教頭を対象に、いじめ、不登校等、学校不適應の未然防止や対応について研修を深める。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】4月16日開催 講師 黒部市教育委員会 学校教育班長 齊藤 誠 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の市内小中学校の不登校、いじめの状況について、具体的な資料を基に共通理解し、どちらも今すぐに取り組まなければならない喫緊の課題であるという認識を明確にすることができた。 ・年度当初に当たり、黒部市教育の方針や教頭の役割等について全小中学校教頭が共通理解を図り、職務上大切にすべきことを改めて確認することができた。 <p>【第2回】2月16日開催 講師 黒部市小・中学校SSW 大坪 剛 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、児童生徒や保護者に対応する中で明らかになった課題や対応事例等についてのSSWの講話を基に、学校不適應の未然防止のために学校として取り組むべきこと等について研修することができた。 ・講話を受けて、参加者一人一人が自校の課題とその解決のための方策を考える場を設定したことにより、教頭として取り組むべきことを明確にすることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校のみでなく、小学校における不登校が激増している。いじめや不登校、学校不適應問題に対応する際の校内の要となる教頭が自校の実態を把握し、組織として未然防止や解決に当たることが必要である。SSWやSC、適応指導教室等、専門性を生かしたチームによる指導・支援が早期の解決や未然防止に繋がることも多く、研修を通して、様々な人や機関と連携する教頭の役割についても意識できるようにすることが必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	3－(2) 生徒指導主事等研修会
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について研修する。児童生徒を9年間で育てるという視点から小中連携の意識を高め、中学校区ごとのグループで情報交換や生徒指導上の課題の共有を図る。</p> <p>○研修会（年4回）を開催する。</p> <p>【第1回 5/13予定】「生徒指導主事としての実務と演習」中止</p> <p>【第2回 6/19】「不登校への対応と未然防止」 講師 東部教育事務所 生活指導主事 川端 浩嗣 先生</p> <p>【第3回 11/13】「カウンセリングの視点を生かした積極的な生徒指導について」 提案 清明中学校カウンセリング協力員 川口 将 先生</p> <p>【第4回 2/16】「時代に適応した新たな生徒指導体制の確立」 講師 黒部市小・中学校SSW 大坪 剛 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第2回】6月19日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部教育事務所生活指導主事 川端先生から、黒部市の不登校の現状を踏まえて、その対応と未然防止のために学校が行うべきこと、生徒指導主事の役割について指導いただいた。不登校児童生徒への効果的な支援の手立てや未然防止のために大切なポイント等について具体的に学ぶことができた。 <p>【第3回】11月13日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清明中 川口教諭のカウンセリングに関する発表（内地留学での研修成果）を基に積極的な生徒指導について研修した。児童生徒と良好な人間関係、信頼関係を築くこと、児童生徒の話を最後まで丁寧に聞くことの大切さを改めて確認する機会となった。 <p>【第4回】2月16日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話を受けて、参加者一人一人が自校の課題とその解決のための方策を考える場を設定したことにより、生徒指導主事として取り組むべきことを明確にすることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市の生徒指導面での課題や教員の要望を踏まえた効果的な研修にするために、問題行動や学校不適応等の現状の把握や分析等に努める必要がある。 ・生徒指導主事等の資質・能力向上を目的として開催しているがどの教員も研修すべき貴重な内容である。広く希望する教員が参加できるよう夏季休業中の開催等も検討する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	3－(3) 教育相談の充実と体制づくり																																
内容・方策	<p>適応指導教室と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <p>○教育相談の案内を学校を通じて、年4回配布する。</p> <p>○保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や児童生徒の支援に当たる。</p> <p>○市教委・市教セによる学校訪問、通常訪問、支援型訪問において、懇談会等で教員の悩みや課題を把握する。必要に応じて各学校に出向き、要望に応える。</p>																																
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">【相談件数と主な内容（令和3年3月5日現在）】</p> <table border="1" data-bbox="464 898 1394 1128"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">保護者</th> <th rowspan="2">学校</th> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="5">内 訳</th> </tr> <tr> <th>不登校</th> <th>人間関係</th> <th>子育て</th> <th>進路</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適応指導教室</td> <td>90</td> <td>46</td> <td>136</td> <td>76</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>3</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>22</td> <td>5</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※来所による相談、電話やメールによる相談を含む。内訳は複数回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校不適應問題、進路、学校や担任との関係、子育て等、幅広く寄せられた相談をしっかりと受け止め、丁寧に対応するよう努めた。緊急性のある相談内容については、相談者の了解のもと学校に連絡するなど迅速に対応した。 ・学校からの要望により、保護者や児童生徒との面談を行った他、ケース会議等に参加し対応について検討した。 ・適応指導教室指導員等やSSWとの連携を密にし、効果的な支援に繋がった。 ・学校を通じて配布している教育相談の案内を見て連絡される保護者も多かった。教育センター、適応指導教室ともに、不安や悩みを抱えた保護者の思いを受け止める場の一つとして、有効であったと考える。 		保護者	学校	合計	内 訳					不登校	人間関係	子育て	進路	他	適応指導教室	90	46	136	76	21	27	3	47	教育センター	22	5	27	8	3	9	7	9
	保護者					学校	合計	内 訳																									
		不登校	人間関係	子育て	進路			他																									
適応指導教室	90	46	136	76	21	27	3	47																									
教育センター	22	5	27	8	3	9	7	9																									
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター所員や適応指導教室の指導員・教育相談員が面談を行う上での専門性を高めていく必要がある。 ・相談内容に応じて、総教セや教育事務所、関係機関等と適切に連携する必要がある。 																																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。 																																


事業・研修会名	3－(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や学校生活、社会生活への適応に対する支援を行う。</p> <p>○通所児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。 ○相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。 ○関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携して児童生徒の支援を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、適応指導教室に通所した児童生徒9名（小学生4名、中学生5名） ※4月・・・3名が昨年度からの継続通所。 6月以降・・・6名が順次新規に通所を開始した。 発達障害による行動に特性が見られる中1生徒への対応のため、所員の配置を変更した。 ・適応指導教室に通所している児童生徒の状況に合わせ、個別の計画を立てて指導に当たった。市教セからも適宜訪問し、児童生徒の様子を観察するとともに、指導員とこまめに連絡・相談することにより、児童生徒や保護者への適切な支援・対応に努めた。 ・通所児童生徒の在籍校には、月ごとの児童生徒の活動報告を届けるとともに、教頭や担任、カウンセリング指導員等と電話や面談により情報を共有するようにし学校との連携に努めた。 ・県総合教育センターの広域訪問指導員や地域訪問指導員の指導助言を受け、支援の改善へ繋がった。 ・月に1回程度、保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けた。今年度前半はコロナウイルス感染症拡大防止へのため中止としたが、6月より消毒・換気等の対策を講じて実施した。参加者は、延べ28名。 ・登校意欲が低下し通所している児童生徒の中には、適応指導教室での活動を通して意欲や自信を高め、登校を再開したり、登校の状況が改善したりした例も多くあった。（小学生3名、中学生1名） ・毎月、各学校の欠席の多い児童生徒の様子を取りまとめ、市全体の状況を市教委や校長会に報告した。 ・生徒指導主事等研修会において年間を通して、学校不適応（主として不登校）に関する研修を行い、生徒指導主事の指導力向上を図った。


<p>課題・改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の増加が大きな課題である。児童生徒への有効な支援の手立てを探るため、適応指導教室やSSW等との連携（ケース会議の開催、情報共有等）が有効である。 ・適応指導教室において、発達障害やHSC（※）等、特性を抱え学校不適應となっている児童生徒の通所が増えている。各校の特別支援教育コーディネーターとの連携や職員研修等により、一人一人に応じた効果的な支援に繋げていく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ※HSC・・・Highly Sensitive Childの略語で、「とても敏感・繊細であり、豊かな感受性を持った気質の子供」を意味する。 ・児童生徒の実態に即して成長に役立つ活動を実施するために学校との連携の在り方を考えていくことが必要である。
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	3-(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進
内容・方策	<p>不登校や児童虐待等の学校・家庭が抱える課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <p>①各中学校及び教育センター所属のSSWが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、問題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。</p> <p>②関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や児童生徒の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。</p> <p>③SSWが小中学校を訪問し、SSWの役割についての説明や活用促進の呼びかけを行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 中学校所属のSSW 1 名と教育センター所属のSSW 1 名の計 2 名が市内全小中学校で勤務した。 ＜SSW 1＞ 2 中学校所属 <ul style="list-style-type: none"> 1・2 学期・・・毎週水曜日は清明中学校と校区の小学校、金曜日は明峰中学校と校区の小学校を基本として巡回勤務した。 3 学期・・・2 学期に対応している児童生徒への面談や家庭訪問を継続することを基本として、各小中学校で巡回勤務した。 ＜SSW 2＞ 教育センター所属 <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して明峰中学校での勤務を基本とし、必要に応じて他校の事案にも対応した。 【活動記録】 <ul style="list-style-type: none"> 3 月末までの勤務見込み 575時間（県525h、市50h） 働きかけをした対象者（実数）児童生徒56名、保護者等48名 家庭訪問（延べ回数） 65回 ケース会議（延べ回数） 5回 ・ 家庭訪問や面談により児童生徒や保護者に働きかけたり、教員に助言したりすることを通して、学校不適応の状況改善に繋げることができた。 ・ 小学校と中学校、適応指導教室等と連携を密にすることにより、児童生徒や家庭に対する効果的な指導・支援を行うことができた。 ・ 社会福祉協議会主管の「くろベネット」によるケース会議に参加したり、黒部警察署、福祉関係事業所等を訪問したりして、支援体制を広げるためのネットワークづくりを行った。 ・ 就学時健診での保護者への広報活動等を通して、SSWの役割について周知することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の実態によりSSWの必要度合いに違いがある。年度当初より、必要感に応じた配置を行うことで、より効果的な支援に繋がって行く必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	3－(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業
内容・方策	<p>子供たちの健全育成に資するよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校（園）訪問において、幼稚園、こども園、小・中学校の連携の視点をもって指導助言に当たる。 ○中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。 ○小中連携に役立つ資料を提供する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する研修会や協議会において、中学校区ごとにグループを編成することで、中学校教員と小学校教員が情報交換を行ったり、課題を共有し解決の方策を共に考えたりすることができるよう努めた。 ・理科研究委員会や外国語教育に関わるカリキュラム部会、情報教育研究委員会等において小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流できるよう配慮した。 ・幼稚園、こども園での訪問研修では小学校との連携・接続、小学校での訪問研修では中学校への連携・接続を念頭に置いた指導助言を行った。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・こ・小の連携について、具体的な取組を展開することが難しかった。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各幼・保・こども園等と各小学校における交流を縮小せざるを得ない状況も見られた。今後は、相互の状況を確認し、情報を収集しつつ、研修の場を設けるなど有効な対応策を検討していくことが必要である。 ・生徒指導、特別支援教育、学習指導等、全ての分野において、小・中学校の切れ目のない指導・支援を意識して研修会や研究委員会等の内容を設定していくことが重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4-(1) 社会科研究委員会
内容・方策	<p>小学3年・4年の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的事象について理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成する。(社会科研究委員 小学校9名)</p> <p>○学習資料「わたしたちの黒部市(第3学年)・(第4学年)」について、新学習指導要領と採択教科書に準拠した改訂作業を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○委員会は2回の開催(8/4、11/24。全員開催は昨年より1回減)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回に令和3年版の改訂箇所洗い出しと作業分担をした。第2回では校正原稿を持ち寄り、令和2年度版と照合しながら協議した。2回目の校正箇所を確認し、12月末までに最終提出された原稿を担当者が編集した。正・副委員長が最終確認後、担当者が仕上げるという流れで進めた。 ・昨年度は3年用で「市に古くからのこるたて物」「安全なまちづくり」の2頁、4年用で「ハザードマップ」の1頁をカラー化したが、今年度は新たに3年用で「スーパーマーケットのひみつ」1頁と4年用で「中坪配水場」「ごみが生まれ変わる」の2頁をカラー化することで、より分かりやすい資料とすることができた。 ・地図や資料は正確かつ最新なものに改訂した。また、ウォー太郎の登場場面を増やし、ねらいに合わせて内容も見直した。 ・見やすく読み間違えにくいUDフォントを採用した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が交代しても地図やグラフ資料等を修正できるよう、修正方法やデータの保存について周知する。 ・県教育会発行の「きょう土のすがた」と重複する資料について見直していく。 ・新学習指導要領全面実施2年目となり、教科書の内容に準拠し、かつ最新の資料となるように改訂を進めてきた。今後も委員の意見を生かしつつ、児童にとってより分かりやすく有意義な資料となるように内容を吟味していく。また、児童が親しみやすい資料となるよう可能な限りカラー印刷化を進めていく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	4－(2) 理科研究委員会
内容・方策	<p>小学校における理科の学習活動を充実させ、理科の見方・考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる資料やワークシート等を作成したり、指導力向上を目指す実技研修を行ったりする。(理科研究委員 小学校6名、中学校2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の観察・実験で困っていること」に対応した実技研修会を開催する。 ○ これまでに作成してきた「実験準備カード集」と「理科の観察・実験で困っていることQ&A」を合本として、新教科書の内容に合わせて改訂する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に実施を予定していた研修会は、新型コロナウイルス感染症対応のため中止とした。 ○理科研究委員会は年間2回開催 <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】8月6日開催 <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画立案。これまで作成した「実験準備カード集」と2年前に作成した「理科の観察・実験で困っていることQ&A」を提示し、新教科書に準拠した改訂を行うための作業分担をした。採択教科書の内容を調べ、これまでの「実験準備カード集」の内容の入れ替えや新規に付加する内容を検討した。 【第2回】 <ul style="list-style-type: none"> ・担当した実験準備カードを集約し、学年毎に校正作業を行った。「理科の観察・実験で困っていることQ&A」は、合本・分冊両方の目次に続く頁に入れることにする。2回目の校正箇所を確認し、12月末までに最終提出された原稿を担当者が編集した。正・副委員長が最終確認後、担当者が仕上げるという流れで進めた。 ・教員が指導しづらいと感じている観察・実験の内容に即して、研究委員が日頃実践している中で会得した悩み解決のヒントやコツ、使用する器具や材料・場の設定等の工夫、安全への配慮等について紹介している。また、実験カード集と「Q&A」を1冊にまとめ活用しやすくした。理科室に合本を、理科担当者の手元に学年の分冊を置いて活用してほしいという委員の意向を各校に伝えた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、新しく入った内容やプログラミング学習への悩みや不安が多いと思われる。他の研修会とのタイアップを含め、スキルアップする機会を設ける。その際、指導力向上のための内容の選定や研修の効果的な進め方を検討していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	4－(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）									
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空や太陽系惑星、恒星など天体の見かけの動きをプラネタリウムで見ることにより、宇宙や天体への興味・関心を高め、理解を深める。</p> <p>○ 学校、吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省等を行う。</p>									
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校 7月～12月 小学校4学年 9校（359人） 12月 中学校3学年 4校（330人） ・事前研修会参加人数 小学校4名 センター1名 ※事前研修会は、小・中学校ともに希望参加とした。 ・教育委員会では、学校や児童生徒の状況に合わせてスクールバスを配車した。 <p>【事後アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル投映の効果 <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">小学校</th> <th style="width: 35%;">中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変参考になった</td> <td>8校（89%）</td> <td>1校（50%）</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>1校（11%）</td> <td>1校（50%）</td> </tr> </tbody> </table> <p><その理由></p> <p>小学校：実際に観察が難しい太陽、月や星の一日の動きを時間の経過と結び付けて連続して見ることができた。また、当日の月と星の動きを見ることができた点がよかった。学習内容のキーワードを大切にしたり分かりやすい説明が、児童の理解につながっている。</p> <p>中学校：板書や動画だけでは理解しにくい太陽の動きや星の動き等の部分を、プラネタリウムで確認することができてよかった。惑星の見え方や動き方についての投映内容がとても分かりやすく、所員による詳細な説明により理解が深まった。</p>		小学校	中学校	大変参考になった	8校（89%）	1校（50%）	参考になった	1校（11%）	1校（50%）
	小学校	中学校								
大変参考になった	8校（89%）	1校（50%）								
参考になった	1校（11%）	1校（50%）								
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウム視聴後に質問タイムを設けたいという意見や、進度に合わせて既習・未習部分の扱いを変えたいとの要望が、事後に寄せられた。事前の打ち合わせにより対応可能であることを学校の担当者に伝えていく。 ・事前研修会は希望する学校があれば、少数でも続けていく。児童生徒にとって充実した学習になるように、学校の要望を踏まえつつ内容や日程については吉田科学館、スクールバスの運行については教育委員会と連絡調整をしていく。 									
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。 									

5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	5-(1) 情報提供
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全でよりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>①不審者情報が入った場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小・中学校に連絡する。</p> <p>②報告書や資料の作成については、市教委や各部長（担当校長）と連携しながら取り組む。</p> <p>③教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、市教委や近隣市町教育センターと連携し、内容について相談しながら、確実に対応するよう努めた。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等の関係機関と相談しながら進めた。市教委や校長会等、関係機関から様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修をはじめとして、各校での特色ある取組や学力向上拠点校での取組、黒部国際化教育の動き、新規採用教員の紹介や市内教員の教育への思い等、幅広く紹介することができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業中には、市教育委員会との協力により、市内児童生徒向けメッセージ(健康安全・学習・相談)をケーブルテレビを活用して放送した。(2回)
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、迅速な対応が求められるが、保護者や警察への報告等について当該校と連絡を取り合い、個人情報への配慮や正確な情報提供に努める必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。

事業・研修会名	5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷
内容・方策	<p>書籍、教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりすることを通して、学校行事の運営や教育指導、教員研修の質的向上を支援する。</p> <p>①視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ②大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※3月1日現在 () 内は前年との比較。 <ul style="list-style-type: none"> ◇視聴覚教材 34件 (－ 4) ◇プロジェクター等の教具 2件 (－ 1) ◇WISC-IV等の検査類 7件 (－ 5) ◇教科書 183冊 (+ 69) ◇書籍 37冊 (+ 7) ・新規に購入した視聴覚教材 (DVD)・書籍やセンター推奨の視聴覚教材 (DVD)・書籍等について、「おすすめDVD・書籍」として、印刷・配布 (年間4回発行) して周知に努めた。 ・市教セでの研修会の際に受講者に紹介したり、目に付きやすい研修室等に書籍を並べたりすることで興味をもち、研修会の休憩時間に手に取る教員もいた。 ・大型プリンターによる拡大印刷については、職員の連携により迅速に対応し、依頼の翌日には各校へ提供できるように努めた。 <div data-bbox="826 1077 1410 1509" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や書籍を多くの教員に利用してもらえるよう、学校が必要とする教材や資料等について最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和3年度も継続する。